

スマホ連動、比較検証容易

大起理化学工業

土中貫入式土壌硬度計

【川越】大起理化学工業(埼玉県鴻巣市、大島忠男社長、048・568・2500)は、スマートフォンと組み合わせて使える土中貫入式土壌硬度計「DI」を1日に発売する。土壌にスピンドルを差し込み、圧力をロードセルで検出後、本体上部に装着したスマホにBluetooth無線でデータを送信・表示する。価格はスマホ込みで47万8600円(消費税抜)

き)。農地の土壌改良用途向けに初年度50台の販売を見込む。対応スマホは防水など密閉性に優れた富士通製ARROWS M 305に限定。アンドロイドで独自開発した測定表示システム(グラフ)を、スマホ付属のGPS機能と連動して利用する。グラフの縦方向は90度までの深度、横方向は堅さを5センチ単位の表層から5センチまでの深さを測定できる。土中へのスピンドルを挿入に伴い、深度に応じた堅さの値が折れ線グラフで表示されていく仕組みだ。スピンドル先端に置かれた重りの動きを検出し、適当な貫入速度を示唆する目安線も表示。一度に10件の測定履歴を表示できるため、比較検証が容易。深度1センチ刻みでの数値データの表示も可能だ。表示は、日本語、英語双方に対応。データ保存件数は1000件。本体電源は単2乾電池2本を使用する。スピンドルは長さ30センチ、60センチをそれぞれ1本ずつ、先端のコーン部は、ニースに沿った取り換え式。

